

つるピー連 熱い夏 ●高松まつり総おどり参加



笑顔あふれるつるピー連。弦打をアピール



「さあ踊ろぞ」。元気いっぱいのおどりで



のぼりを高く掲げ中央通りを行く

高松まつり総おどりに「つるピー連」が2度目の出場。まつり最高潮の昨年8月14日、弦打校区コミュニティ協議会が結成し

た70人が、新調したそろいの手ぬぐい、Tシャツ姿で中央通りで踊りを披露。元気な弦打をアピールしました。

●ゆめ&キッズ 夏まつり

「ゆめ&キッズ つるうち夏まつり」が、昨年7月23日に各種団体の協力で開催されました。コミュニティセンターと小学校体育

館を中心に、ゲームやクイズ、ウォーキング、各種バザー、交通安全寸劇などを満喫しました。また、当日は「つるピー」の誕生日に当たり、1歳を祝いました。真夏の一日、約300人の子どもたちにぎわいました。



つるピーの1歳をみんなで祝いました



弦打すごろくに挑戦する子ども

●ふるさと学習探検隊
勝賀山登山
昨年6月3日「ゆめづくり事業」と「コミセン講座」のコラボ企画で、勝賀山(364m)に挑戦しました。豪族・香西氏の城跡の遺構が残る頂上では、中世の高松市西部に思いをはせていました。16人が参加。



●講演会「相作馬塚古墳から見た5世紀の国際交流」 ～コミュニティセンター講座～

昨年8月5日コミュニティセンターで、高松市創造都市推進局文化財課(高松市埋蔵文化財センター)の高上拓学芸員が、鶴市町の相作馬塚古墳の発掘調査から分かった被葬者や出土品、5世紀後半の弦打地区の様子を映像を交え講演しました。古墳は一昨年6月～8月に調査、未盗掘の石室を確認。多くの副葬品が見つかり、分析されました。



●人権講演会
弦打女性教室・高齢者教室・コミュニティセンター講座共催
昨年8月29日、コミュニティセンターで郷土史家の上原敏さんを講師に「民衆のパワー！奈良の大仏を造る」と題して講演が行われました。



いきいき人生 ～輝くシルバー世代～ 第8回



川上 シゲ子さん
(88歳、飯田町)

昭和4年、大川郡寒川町の農家に6人兄弟(姉妹)の次女に生まれました。山奥の自宅から学校まで片道6kmを、雨の日も風の日も、歩いて通いました。学校では歴史と国語が得意で読書が大好きでした。兄や姉が読み終えて、筆筒にしまっておいた本を、こっそり、取り出して読みふけたものです。テレビやゲーム機のなかった昭和初期の日本では、読書は大きな楽しみだけでなく、人間形成の大事な手段でした。

1年中、農業を手伝い、夏休みとか冬休みには、長尾にあった歯ブラシ工場で、姉と一緒に働き、卒業後、この会社に就職したときには、すでに一人前の熟練工になっていました。20歳の頃、高松に出て、旅館の住込み手伝いになりました。この旅館の主人が良くしてく

れて、行儀作法とか仕事に必要な社会常識をしっかりと教えてくれました。残念ながら、今まで、良き伴侶に出会う機会に恵まれませんでした。

飯田団地には昭和60年頃、移ってきました。当時、ここから弦打小学校に通学する子どもが大勢いて、団地は活気にあふれていました。十数年前の私には、ささやかながら、社会奉仕活動の喜びがありました。

当時の広報誌で紹介されました。

光明寺から飯田団地まで、毎日子どもたちの下校に付き添って歩きます。子どもたちの安全確保もバッチリ。川上さんも子どもたちから元気ももらっています。

早朝散歩で元気いっぱい

さて、健康の秘訣は、三度三度、きっちり、食べる。そして運動を続けることです。早朝散歩を日課として、今でも、夏は午前4時、春秋は6時10分前、寒い冬でも午前8時には家を出ます。若い頃は、毎日10km、鶴市町御殿を経てエデンの丘を過ぎ、切通越から山道を回って自宅まで、途中、人を見かければ、「なんしょんな」と気さくに話しかけ、愉快地に談笑したものです。早寝早起きを実践して、午後4時には就寝します。それでも、俳句を作る時間がたっぷりあって、

敬老会 長生きしたよ 八十八
川上さんのご健勝とご長寿を心からお祈り申し上げます。
(担当:横井義則、平山秀子、井下久美子、明石佐都子)

●反射材着用キャンペーン ～コミュニティ協議会など～

秋の全国交通安全運動期間中の昨年9月29日、県下一斉の「反射材着用啓発街頭大キャンペーン」が行われ、鶴市町の木太鬼無線と県道176号交差点付近でも、午後6時頃からドライバーや歩行者などに、早めのライト点灯や反射材の活用による夜間の交通事故防止を訴えました。

